

随 想

「さよなら」は言えません

北島 桂子

与えられた生命の不思議さを
自分に問い
人にも問い
問いつづけていたのですが
何もわからないままに
こんなところまできてしまいました

お会いしましょうと約束した日が
お葬式になるなんて
どうして考えられましょう
それは
炎を集めたような暑い日でした

わたしは
いくら言っても言い足りないほどの「ありがとう」を
心にも
両腕にも
こぼれるほどに持っていました
持ったままで膝を折って
しばらくはうずくまっていたのですが
行き場のない言葉を
一枚ずつ
日めくりのように破って
空にとばしていました
はるかに遠くに向かって飛ぶ筈の日めくりは
寺院の屋根の上に一列に並んで

雨曝しの小旗のように翻っていました

「さよなら」は言えません

—高橋歌子様におくるうた— (地平の会会員)